

開講科目名 / Course	基礎看護学実習
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 3 学期 / Third
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third
単位数 / Credits	2.0
学年 / Year	1
主担当教員 / Main Instructor	秦 さと子
担当教員名 / Instructor	秦 さと子、石丸 智子、田中 佳子、神矢 恵美、後藤 壮登
必修・選択 / compulsory subject	必修
講義形態 / Class Type	実習
授業回数	40
科目の目的と概要	看護の対象としての人間を理解し、一人の患者を受け持ち、看護の概念や知識・技術を活用しながら看護を実践する。実践した看護を振り返り、専門職として成長し、発展していく姿勢を自己形成することが目的である。約2週間の病院実習を通して看護師への同行実習や受け持ち患者への看護を実践し、今後の学習意欲を高める。
到達目標	1. 対象者を社会で生活している人として述べるができる。 2. 対象者が健康障害や入院によって受けている影響を説明できる。 3. 看護実践を通して対象者に必要な看護について説明できる。 4. 看護職者に求められる基本的姿勢に基づいた行動ができる。
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能
授業計画	実習期間：2027年1月18日（月）～1月29日（金） 実習施設：大分赤十字病院、アルメイダ病院、三愛メディカルセンター他近隣の病院 実習方法： オリエンテーション（目的、目標、実習展開、実習記録、評価等） 病院実習（一人の患者を受け持ち、既習の知識・技術を活用して看護を実践する。看護師に同行し、臨床看護師の役割等について学習する。カンファレンスを通して、他者の考えや討議から自己の考えを深めたり広げたりする機会となる。） 実習の振り返りやまとめを通して、看護職としての姿勢や看護観を養う。
その他の授業の工夫	実習開始の約1か月前に事前オリエンテーションを行うことで、臨地実習に向けた準備性を高める。看護師への同行実習は、看護職者の立場から看護や求められる行動について熟考する機会を提供する。 日々のデイリーカンファレンス、振り返り記録の記載と実習指導担当教員による指導を通して、体験を学びに深化させる。 患者を一人受け持つことで、既習の知識や理論から対象に必要な看護を導く方法を实际的に理解させる。 生活者としての対象理解を促進させるために、ヘンダーソンの理論枠組みを使用する。 日々、目標と計画を立案させることで、実習を計画的に実施する重要性を意識させる。 実習で体験した内容を時間をかけて振り返るために帰学日（大学での学習時間）を各週に1日設けている。 自分の対象への理解が適切であるかどうかを判断するために、臨地実習指導者参加のカンファレンスを実習の中間と最終日に設けている。 看護実践における個人の課題を明らかにさせることで、学習の動機付けとする。
時間外学修	事前学修：既習の知識・技術（解剖生理、病理、生活援助論等）について復習を推奨する（4h）。 事後学修：自分の実習の振り返り記録（Daily Sheet）、翌実習の目標と計画立案、患者記録の記載（4h）。
評価方法と評価割合	100%出席を原則とする。実習目標の到達度（80%）、看護職に求められる基本的姿勢（20%）で評価する。 記録物の提出期限遅れや未提出、本人の責に帰す遅刻や欠席は減点対象とする。
テキスト	既習のテキスト全て
参考書	
履修する上で必要な要件	看護学概論、生活援助技術論、看護理論入門の単位を修得済み、あるいは単位修得見込みであること。
その他	

教員の実務経験	有・無	有
	内容	秦さと子：病院の看護師 石丸智子：病院の看護師 田中佳子：病院の看護師 神矢恵美：病院の看護師 後藤壮登：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	担当教員全員、看護師の経験者であり、豊富な臨床経験を通して療養生活を営む生活者としての対象の理解を深めさせることができる。 実習指導者と実習目標達成のために、密に連携して協働できる。	